第18回「いつもありがとう」作文コンクール

言葉ではいえない大切な人への感謝の気持ちを作文に書いてみよう

■募集テーマ／いつもお世話になっている身近で大切な人に対し、普段言葉ではなかなかいえない感謝の気持ちを作文に書いて応募してください。
例）「お母さんありがとう」「大好きなお父さんへ」「私のお兄ちゃん」… など

■応募方法／400字詰め原稿用紙1～3枚まで。作品の裏に応募者の郵便番号・住所・氏名・電話番号・学校名（所在地・電話番号）・学年・年齢・当コンクールを知ったきっかけを明記してください。
◎応募作品は返却しません。　◎ひとり何点応募しても結構です。
◎作品は必ず自分で書いたもので、未発表のものに限ります。◎海外からも受け付けます。
◎生成AIの使用は禁じます。

■応募資格／全国の小学生

■応募締切／2024年9月10日（火）必着

■応募宛先／〒101-0032 東京都千代田区岩本町3-10-12 山源ビル6F
「いつもありがとう」作文コンクール事務局

■お問い合わせ／電話03-3545-5226　受付時間10時～18時（土・日・祝日を除く）

■審査員
（敬称略）

あさの あつこ

気象予報士
森田 正光

フリーアナウンサー
小島 奈津子

シナネンホールディングス株式会社
山崎 正毅

朝日小学生新聞
吉田 由紀

■入賞発表／2024年12月6日（金）朝日小学生新聞紙上・「いつもありがとう」作文コンクール特設ウェブサイトで発表予定

■賞／
- 最優秀賞……1作品　賞状・副賞として図書カード5万円分
- シナネン賞……1作品　賞状・副賞として図書カード3万円分
- ミライフ賞……1作品　賞状・副賞として図書カード3万円分
- 朝日小学生新聞賞……1作品　賞状・副賞として図書カード3万円分
- 優秀賞……低学年の部 3作品／高学年の部 3作品　賞状・副賞として図書カード2万円分
- 入選……低学年の部 7作品／高学年の部 7作品　賞状・副賞として図書カード5千円分
- 団体賞……賞状・副賞として図書カード5万円分
  「北海道・東北」「関東・甲信越」「中部・関西」「中国・四国」「九州・沖縄」の5ブロックから選出

【「いつもありがとう」作文コンクール 特設ウェブサイト】
https://sinanengroup.co.jp/sakubun/

主催：シナネンホールディングスグループ
朝日学生新聞社
後援：文部科学省／朝日新聞社

※ご応募に関する注意事項／コンクールの審査結果に関わらず、応募作品に関する所有権、著作権等の権利は、主催者側に帰属するものとし、それらを広告宣伝等の目的でシナネンホールディングスグループ及び朝日学生新聞社の広告や印刷物、ホームページ等に使わせていただく場合があります。※個人情報に関する注意事項／お客様からいただいた個人情報は、賞品等の発送、シナネンホールディングスグループ及び朝日学生新聞社の広告宣伝等のための広告や印刷物、ホームページ等への応募作品の掲載のためにのみ利用させていただきます。また、当該業務の委託に必要な範囲で委託先に提供する場合を除き、個人情報をお客様の承諾なく第三者に提供いたしません。

【シナネンホールディングスグループ】
シナネンホールディングス　ミライフ西日本　ミライフ　ミライフ東日本
シナネン　シナネンサイクル　シナネンモビリティPLUS
シナネンエコワーク　シナネンゼオミック　ミノス　シナネンアクシア
シナネンファシリティーズ

人とエネルギー、住まいと暮らしのあいだに。SINANEN
https://sinanengroup.co.jp

最優秀賞

福岡県
明治学園小学校４年
能美（のうみ） にな

にぎやかな家族

「二人だとおうちの中も静かでしょう。」

「ご兄弟は？一人っ子はさみしいね。」

　母と一緒に出かけた時、時折言われる言葉だ。母は困った顔であいまいに返事をする。我が家は母と私の二人家族。私は一人っ子。兄弟や姉妹のいる人のことは正直うらやましい。兄弟のいる友達のように、姉とのケンカも弟のぐちも私には経験できないからだ。しかし果たして、我が家は「静かな」家庭で、一人っ子の私は「さみしい」のか。考えてみることにした。

　兄弟がいたらどんな感じだろう。兄や姉には勉強を習う。おさがりの服ももらえるかもしれない。朝は一緒に学校に行くし、ちょっとしたいたずらも教えてもらう。ゲームで勝てず、くやしい思いもするかな。弟や妹がいたらどんな生活だろう。きっと私の後ろをついてくる。少しうっとうしい気もするけれど、お姉ちゃんと言いながら追いかけてくるのはかわいいだろうな。歌や勉強も教えてあげたいし、夜は一緒のベッドでねるんだ。絵本を読んであげるのもいい。誕生日のケーキも何度も食べられる。うん、たしかに兄弟や姉妹がいる生活はとても楽しそうだ。

　では今はどうだろう。母は仕事をしている。家の中のことを切りもりするのも母だ。もちろん家事は完ぺきではない。電車で一駅のところに住む祖母にも協力してもらいながら、母と私は二人で生活している。朝、母は遠回りになってでも、私がバスに乗るまで見送ってから仕事に行く。学校から帰った私は宿題をする。わからないところは帰宅した母が菜ばし片手に説明。ご飯の前には二人でチョコレートを、誰も見ていないのになぜかこっそり口に入れて、にやり。夕食後にはゲームだ。オセロやトランプ、テレビゲームのこともある。母は強い。そのうえ一切手加減しない。負けてばかりだった私だが、最近は歴戦のかいあってどのゲームもほぼ互角だ。夜は私の時間に合わせて母も一緒にベッドに入り、私が作った物語をきいてくれる。そういえば前に私がお出かけで着ていたワンピースは母のおさがりだ。考えてみると、想像してみた兄弟姉妹がいる生活と同じくらい、今の母と二人の生活も楽しい。話題にあふれる家の中は、静かとは程遠い。兄弟姉妹はもちろんうらやましいが、意外なほど、一人っ子でさみしさを感じたことはないことに気づいた。

　私は知っている。母が私に教えられるよう、こっそりと私の教科書で勉強していることを。私のそばでできない家事は予め終わらせていることを。忙しい中で工夫して作る私との時間の中で母は私の兄に、姉に、妹に、そして弟に大変身しているのだ。今度誰かに言われたら、母が困った顔をする前に私が答えよう。

「私は、一人っ子です。我が家は、とても楽しくてにぎやかな、二人家族です。」